

第42回

# 「とやま賞」贈呈式

令和7年5月19日(月)

贈呈式・受賞記念講演

「とやま賞」とは…

富山県の置県百年を記念し、富山県の将来を担う有為な人材の育成に資する目的をもって昭和59年に創設されました。

受賞対象者は、富山県出身者または県内在住者で、学術研究、科学技術・文化・芸術及びスポーツの分野において顕著な業績をあげ、かつ将来の活躍が期待される個人または団体です。



石塚選考委員長による選考経過報告



新田知事より賞状・目録贈呈



第42回「とやま賞」贈呈式は、去る5月19日に、パレブラン高志会館にて執り行われました。  
贈呈式では、新田富山県知事から受賞者5名に賞状及び奨励金目録が手渡されました。また、各受賞者からは受賞の喜びやこれまでの経緯についてプレゼンテーションしていただきました。



受賞記念講演

## 今回の受賞者



山田 直也 氏

学術研究部門 医薬(生命科学分野/消化器病学)  
Heinholz Zentrum München,  
Institute of Metabolism and Cell Death, ポストドクター

フェロトシスを標的とした難病  
克服とがん治療の革新への取り組み

この度は、栄誉ある第42回とやま賞を賜り、誠にありがとうございました。新田県知事をはじめ、富山県ひとづくり財団の皆様、ならびに富山県民の皆様にご心より御礼申し上げます。

私は富山で生まれ育ち、2009年に富山大学医学部を卒業後、同附属病院で初期研修を受けました。その後、栃木県の自治医科大学にて小児肝移植を専門とする外科医として、臨床と研究に従事してまいりました。2016年には大学院博士課程へ進学し、受賞課題である新たな細胞死様式「フェロトシス」と肝疾患に関する研究に着手しました。

これまでに、肝移植時に生じる肝虚血再灌流障害や、急性肝不全の主因であるアセトアミノフェン肝障害においてフェロトシスの関与を明らかにし、その病態解明に貢献してきました。さらに、CRISPR/Cas9を用いた遺伝子スクリーニングにより、肝細胞におけるフェロト

シス制御因子「DHCR7」を同定し、肝臓特異的な分子機構の発見にもつなげています。2023年からは、フェロトキシス研究の世界的拠点であるドイツ・ミュンヘンのヘルムホルツセンター・ミュンヘン (Marcus Conrad研究室) にて研究を進めており、現在は小児難病であるミトコンドリア肝症や肝癌・膵癌を対象に、フェロトキシスを通じた病態の解明や新規治療法の開発に取り組んでいます。

今後も、富山で育まれた探究心と粘り強さを原動力に、難病の克服と医学の発展に取り組み、その成果を通じてふるさと富山の皆様に恩返しできるよう努めてまいります。改めまして、この度は誠にありがとうございました。



室 龍之介 氏

**学術研究部門 医薬・生命科学分野(免疫学)**  
 東京理科大学 生命医科学研究所  
 分子病態部門 助教

**炎症性 $\gamma\delta$ T細胞の分化を促進する分子メカニズムの解明**

この度は、栄誉あるとやま賞を賜り、大変光栄に存じます。富山県ひとつくり財団の関係者に心より御礼申し上げます。

私は、入善町に生まれ、入善小学校、入善中学校、入善高校を卒業しました。山口大学では、山田守先生指導の下、大腸菌の細胞死に関する研究を行いました。その過程で、私たちはどのように自己と病原体をはじめとする非自己を区別しているのだろうか、と考えを巡らせ、東京医科歯科大学(現東京科学大学)に進学し、免疫学を専攻しました。博士課程では、鈴木春巳先生指導の下、T細胞における新規分子の機能解明に取り組みました。

博士取得後、東京大学免疫学講座の高柳広先生の研究室で職を得て、胸腺における $\gamma\delta$ T細胞の分化に関する研究を始めました。 $\gamma\delta$ T細胞は、 $\alpha\beta$ T細胞(一般にT細胞)とは異なる性質を持つ非典型的なT細胞です。例えば、病原体の侵入に素早く反応し、大量の炎症性サイトカインを分泌し、初期の免疫応答を担います。このようなユニークな特徴をもつ $\gamma\delta$ T細胞はどのように胸腺で分化するのか?この疑問に答えるために、免疫受容体近傍のリン酸化酵素であるZfp70とSYKを欠損するマウスを作成し、胸腺 $\gamma\delta$ T細胞を解析しました。その結果、 $\gamma\delta$ T細胞受容体シグナル伝達には、B細胞受容体シグナルの制御に重要なSYKが必要であることを見出しました。驚くことに、SYKを欠損する $\gamma\delta$ T細胞は炎症

性サイトカインIL-17を産生できないことがわかりました。また、SYK欠損マウスは、IL-17によって誘導される乾癬様皮膚炎に抵抗性となることがわかりました。

最後に、博士課程から今日に至るまでにご指導くださった東京理科大学 新田剛教授に深く御礼申し上げます。



中室 貴幸 氏

**学術研究部門 理工分野(化学)**  
 東京大学総括プロジェクト機構  
 「革新分子技術」総括寄付講座 特任准教授

**分子動態の電顕映像解析による化学の新境地**

このたびは、栄誉あるとやま賞を賜り、心より御礼申し上げます。富山県人づくり財団ならびに関係者の皆様に、心から感謝申し上げます。

私は富山市婦中町に生まれ、速星小学校を経て、富山高等専門学校へと進学しました。進路を選んだきっかけは、単純に「化学が好きだったから」です。とはいえ、まさか現在まで研究者として歩み続けているとは、当時の自分には想像もつきませんでした。

高専卒業後は京都大学に編入し、有機

合成化学の分野で博士号を取得しました。生まれ育った「くすりの街」富山での環境や、身近な人が大病を患った経験が、少なからず進路に影響しているのだと感じています。現在は東京大学で電子顕微鏡を用いた研究を行っています。難しい研究内容はさておき、本誌『創造』の読者が教育に関わる方や未来を担う若い世代であることを踏まえ、科学教育に関心を持つ者として、メッセージを二つお伝えたいと思います。

一つ目は、「コミュニケーション能力の大切さ」です。AIの進展により、多くの人々が新時代を経験していくこととなります。どのような環境でも、自分の考えを正確に伝え、他者と協力しながら課題を解決する力がますます重要になります。私自身も、富山高専時代の恩師・青山晶子先生に英語での表現力を鍛えていただき、また、母からは物おじしない姿勢を学びました。国際性を備え、自分の意見を論理的に伝えることのできる人材が、これからの社会を支えていくと信じています。

二つ目は、「多様な興味を持つことの重要性」です。昨今は「二刀流」という言葉が注目されていますが、今後は「多刀流」といったマルチな能力が求められる時代が来るかもしれません。私自身も、

有機化学と電子顕微鏡学という異なる分野の接点に挑むことで、新たな分子科学の可能性を切り拓いてきました。未知の領域に興味を持ち、自らの視野を広げていくことが、思わぬ発見や進路に繋がることもあるのです。もちろん、挑戦の道には困難も伴います。そんな時には、家族や友人、信頼できる先生方としっかりと話し、時には気分を切り替えながら、前向きに歩んでいただきたいと思います。最後に、これまでともに研究を進めてくださった多くの共同研究者の皆様、そして日々支えてくれる家族に、改めて深く感謝申し上げます。この度は、名譽ある「とやま賞」をいただき、富山県とづくり財団ならびに関係者の皆様に心より御礼申し上げます。

文化・芸術部門

舞踊

(有) ジャンクシヨシ



中川 賢氏

舞踊家・振付家として革新的作品の舞台表現者として第一線で活躍し、今後の舞台芸術を担う

私はとやま賞の受賞をきっかけに舞台芸術の世界に携わった36年間を振り返ることができました。

6歳の時に和田朝子舞踊研究所（現在のZバレエスタジオ）でモダンダンスを始め、中学生までの間に富山で数々の貴重な舞台を経験。その後上京し、高校、大学と演劇の勉強を経てプロのダンサー・ミュージカル俳優として活動。その後、新潟市にあるダンスカンパニーZoisemで8年間、ダンサーとしてかけがえない日々を過ごしました。そして東京に拠点を移して今に至るまで、応援してくださる方々やアーティストとのたくさんの出会いのおかげで舞台の世界を諦めずに続けてくることが出来ました。これまで出会ってくれた方々に心から感謝しています。

舞台芸術は、基本的に、その時、その場所、そこにいた人たちだけで作り上げられる刹那的なものです。しかし一瞬一瞬に命をかけて生きる芸術家の魂は、世代を超えて確実に繋がっていき、観客自身も人生における大事な何かを受け取り、一生忘れられない経験をする。舞台を作るのも、一緒に踊るのも、それを観るのも、すべては人と人との間にある繋がり大切にすることによってかけがえのないものになります。

私のダンス人生も一つ一つの舞台に真摯に向き合ってきたからこそ、今に繋がっているのだと思います。今後はダン

サー、俳優としての活動をメインにしつつ、振付や指導などを通して私が次へ繋げていく番だと感じています。

様々なエンターテイメントが溢れるこの世の中で、生身の人間が身体や心をさけ出して行われる舞台芸術の素晴らしさを信じて、忘れられない一瞬を与えられるアーティストになれるようこれからも精進していきます。

それがゆくゆくは富山への貢献となることを願っています。

スポーツ部門

バスケットボール

BLEAGUE 長崎ウエルカ



馬場 雄大氏

秀でた競技内容・成績

このたびは「とやま賞」を賜り、心より感謝申し上げます。

小学1年生でバスケットボールと出会い、奥田中学校時代は休みが元旦だけで残り364日は厳しい練習に取り組む日々でした。富山第一高校在学中は、2年次と3年次にウィンターカップへ出場し、全国のレベルの高さを痛感しました。小学校から高校まで、富山で過ごした毎

日が私の原点となっています。

大学在学中には教員免許を取得しながら日本代表に選出していただき、競技と学びの両立で自己管理能力を磨きました。

2017年にアルバルク東京へ入団し、新人王、連覇、チャンピオンシップ MVP を獲得でき、NBA GリーグやオーストラリアNBLへ挑戦し、リーグ優勝と最優秀守備選手賞を獲得しました。東京五輪、パリ五輪にも日本代表として出場し大きな経験が出来ました。

今の私がいるのも、富山での日々を支えて下さった皆様のお陰です。

今後は、スポーツの力で地域と世界をつなぎ、夢を持つ子どもたちの背中を押せる存在を目指し、さらなる挑戦を続け、富山県に恩返ししたいと思います。

